

新製品開発におけるフロントエンドローディング

‘新製品開発とドイツ’

— 新製品開発の創世 —

(株) ジョンキエルコンサルティング 落合以臣

A Front-End Loading in New Product Development

‘A new product development and Germany’

-The Genesis of new product development-

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords: 企業・新技術・人間崩壊・基礎研究・熟練・職人・新製品

EC から EU 設立の立役者であるドイツ連邦共和国は、これまでに数々の企業を産み出しています。自動車産業ではフォルクスワーゲン、ダイムラー、BMW、アウディ、化学分野では BASF SE、機械分野ではシーメンス、IoT 分野ではボッシュ、SAP、鉄鋼・工業製品分野ではティッセンクルップ、スポーツ用品分野ではアディダスなど、世界に名を馳せた優れた企業が存立しています。こうした超大企業は、数々の品質ともにすぐれたユニークな製品・商品を世に送り出しており、日本に次ぐ品質大国と言われています。ひょっとしたら、日本が次になっているかも知れません。

このような大企業でなくても新製品を産み出し、世界の脚光を浴びている企業もあります。それは、カーボン素材専業で各分野の製品開発を手掛けるオールアヘッド社が展開しているサイクルパーツブランドであるバイクアヘッドです。この企業は、ドイツ発といわれるカーボン一体成型ホイールを作り出しました。車体にカーボンファイバーを使うことは周知の通りですが、リム・スポーク・ハブがカーボン一体成型されたコンプレッション構造を作り上げたことは、世界発の製品・商品と言っても過言ではないでしょう。この製品をスポーツ自転車の生産しているシクロワード社を通して販売しています。カーボンファイバー自身は、優れた剛性と軽量性を持つために、古くはテニスのラケット、釣り竿、レーシングカーの車体、橋梁、耐震補強、現在では航空機の胴体、傘など多くの製品・商品に使われてきました。しかしながら、カーボンファイバーでリム・スポーク・ハブの一体成型を作り上げたことは、新製品・商品というより、新技術の開発と言えるのではないのでしょうか。

先日、オールアヘッド社を訪問した折、開発現場のエンジニアの方が、「製品はすべてこのドイツの自社工場で熟練の職人の手によって作られ、2010 年に創業した企業ですが高性能、高精度、高品質を特徴とし、既に世界的にも高い評価を受けています」と胸を張って説明していた姿勢を見ながら、日本の企業は大丈夫だろうかと不安を感じました。かつての日本は、“自社工場で熟練の職人の手によって作られ”という部分を大事にし、その結果、品質ナンバーワンの勲位を世界から与えられたはずですが、いつの間にか、パフォーマンスを追及するあまり、基本技術を大事にしなくなったといえます。ただ、気をつけなくてはいけないのは、基礎研究を追及していない企業ほど、基礎研究所という名前をつけ、うちは基礎研究を大事にしていますという一種の Bluff（虚勢）を恥もなく公言している企業です。

こうしたことに鑑みますと、“自社工場で熟練の職人の手によって作られ”という意味を、もう一度再現することに力を注がないと、日本の企業自身が自滅していくのではないのでしょうか。特に、重要なことは、人間崩壊が囁かれる中で、企業運営の舵取りも難しい局面に遭遇していると思われるが、本当の意味での新製品・商品開発を行うことを期待したいと思います。